教育研究業績書

2025年05月07日

所属:健康・スポーツ科学科 資格:教授 氏名:伊東 太郎

研究分野	研究内容のキーワード
トレーニング学, バイオメカニクス, 運動制御学 (motor control)	ピリオダイゼーション,コオーディネーショントレーニング,筋電図
	動作学
学位	最終学歴
博士(学術),教育学修士,教育学士	大阪教育大学大学院 教育学研究科 保健体育専攻 修士課程 修了

博士(学術),教育学修士,教育学士	大阪教育大	学大学院 教育学研究科 保健体育専攻 修士課程 修了
	教育上の能力に関する事	項
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1.「より良い授業方法の工夫と実践」に関する奨励	2016年8月19日	表題の事項について武庫川女子大学学長から顕彰を授 与.
2. 運動生理学実験の導入	2006年4月~2011年3月	大阪青山大学管理栄養士課程「運動生理学実習」に、 運動による身体各機能の応答を把握するために実験実 習を導入。呼気ガス分析による最大酸素摂取量や無酸 素性作業閾値の測定・基礎代謝測定・血中乳酸測定・ ライフレコーダーによる身体活動量測定・心拍数測 定・消費熱量計算・ヘモグロビン量測定・骨密度測 定・筋力測定・運動疲労時の筋電図測定・インスリン
3. 実験実習の導入	1987年4月~2006年3月	感受性測定(経口ブドウ糖摂取後の血糖値測定)および筋電図測定などを導入。 英知大学「体育講義」や「体育実技」に,運動生理 学・バイオメカニクス実験を導入。運動中における心 拍数測定,最大酸素摂取量測定,筋電図測定,運動処 方作成,映像分析などを導入。
2 作成した教科書、教材		
1. 指導用資料の作成	1993年2月	日本一輪車協会大阪支部の依頼を受け、小学校体育教材の一輪車指導のための資料を筋電図および映像分析により作成。研究成果は英知大学論叢『サピエンチア』第27号・28号に発表の上、日本一輪車協会へ報告。英知大学体育実技(教職用)ではこれをテキストとして指導。
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他 1. 陸上競技部 監督/副部長	2020年04月1日~現在	U20全国陸上競技大会(400m&400mH二冠 中野菜乃, 棒高跳 第3位 荻野紗英,三段跳 第6位 吉田真 美)広島広域公園陸上競技場10月23-25日. 2020 第97回 関西学生選手権大会 総合 第3位 73.5 点,トラック24点第5位フィールド42.5点 第2位,混
		成 7点 第3位.10月20-23日. 第104回日本陸上競技選手権リレー競技大会 横浜スタジアム 日本選手権女子 4x100mR(末石-河原林-山本-三村)10月14日-16日.
		第104回 日本選手権陸上競技大会 新潟デンカビック ワンスタジアム (出場選手成績:棒高跳 野志侑希12 位)10月1日-3日.
		第30回関西学生対校女子駅伝競走大会 第12位9月 26日.
		天皇賜盃 第89回日本学生陸上競技対校選手権大会 新潟デンカビッグスワンスタジアム(総合13位(創部以来,最高成績),フィールドの部第4位23点:入賞選手走高跳 渡川和華1m75 第2位,棒高跳 野志侑希3m90 第2位,三段跳 船田茜理 12m63 第3位,齋

教育上の能力に関する事項							
事項	年月日	概要					
4 その他							
2. 陸上競技部 監督/副部長	2018年4月1日2020年3月 31日	藤 遥 12m44 第6位) 2020年9月11~13日. 天皇賜盃 第88回日本学生陸上競技対校選手権大会 岐 阜メモリアルヒンター長良川競技場(総合38位,フィールドの部第 16位 5点:特筆事項 三段跳 惠良和鈴 第4位) 9月 12日-15日.					
		秩父宮賜杯第72回西日本学生陸上競技対校選手権大会 西京極陸上競技(総合第9位 31点,トラック第10位11 点,フィールド第6位 14点) 6月21日-23日.					
		2019 第96回 関西学生選手権大会(総合 5位 75点 , トラック24点7位,フィールド35点 3位, 混成 11点 2 位)					
		2019 第85回兵庫学生陸上競技対校選手権大会 総合優勝					
		2018 第87回 全日本学生陸上競技対抗選手権大会 総合18位,フィールドの部 第6位入賞(特筆事項:走幅跳 秦 澄美鈴 6m06 優勝),混成の部 第8位入賞,神奈川県等々力競技場2018.9.6-9.					
		2018 第71回 西日本学生陸上競技対校選手権大会 総合6位,トラック8位,フィールド5位,混成7位					
		2018 第102回 日本選手権陸上競技大会(秦 澄美鈴 走幅跳 第2位6m08)					
		2018 第95回 関西学生選手権大会 総合 3位 75点 , フィールド 56点 2位, 混成 7点 2位					
	2013年10月~2018年3月	2018 兵庫学生選手権大会 総合 準優勝					
パートコーチ							
4. 武庫川女子大学 陸上競技部 監督 兼 副部長	2013年06月19日~2013年09月						
5. 武庫川女子大学 陸上競技部 副部長 兼 跳躍	08日 2011年12月~2013年06月						
パート(走高跳・走幅跳・三段跳)コーチ							
6. 大阪教育大学 陸上競技部コーチ	1986年08月01日~1988年03月 31日	大阪教育大学陸上競技部において跳躍パートを中心に コーチング					

年月日 07月30日~現在 03月03日~現在	概要 資格KOORDINATIONSTRAINERについて,ドイツライプチヒ 大学よりマイスターの称号を授与された. コオーディネーショントレーニング学 (神経系トレー
7. 7. 7.	大学よりマイスターの称号を授与された.
7. 7. 7.	大学よりマイスターの称号を授与された.
03月03日~現在	1 - 1 - 1
03月03日~現在	コオーディネーショントレーニング学(神経系トレー
	ニング法)について,学問の発祥地であるドイツのラ
	イプチヒ大学において,その理論と実施方法の資格を
	取得.
07月~2015年03月	
)3月	
)3月	
)3月	
4月1日~	
	93月 93月 93月

職務上の実績に関する事項					
事項	概要				
4 その他					
2. 共通教育委員	2014年04月01日~2018年03月				
	31日				
3. 諸資格対策委員					
	日				
4. 国際交流連絡協議会委員	2011年04月~2014年03月				

4. 国際交流連絡協議会委員 2011年04月~2014年03月						
	研究業績等に関する事項					
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要		
1 著書						
1.第11回トレーニング 科学・国際集中講座 報告書	共	2015年11月	編集発行:公益財団法人ユーハイム体育・スポーツ振興会	分担執筆:「ライプチヒ・スポーツ科学史」,「負荷コンセプト"負荷-荷重-パフォーマンス向上"」,「ちから能力とそのトレーニング(一般力 VS 専門力)」,「運動個体発生」,「オリンピック強化センター(OSP)訪問」,「コオトレ見学(ハンドボール; A ユース)」,「IAT(国立応用トレーニング研究所)訪問」(伊東太郎)		
2. 人間科学の百科事典	共	2015年03月	日本生理人類学会 編集(編集委員長 勝浦哲夫),丸 善出版	分担執筆:第3章『カラダの機能』;14節「筋収縮」,15節「活動電位」,16節「振戦」(伊東太郎)		
3. 多関節運動学入門 第2版	共	2012年03月	編者 山下謙智: 共著 山下謙智, 伊東太郎,東隆 史,德原康彦、 ナップ社	分担執筆:第8章「体性感覚と運動に付随する姿勢調節」,第9章 「身体の機能低下と動的姿勢調節の変化」,および第10章「歩行運動ー糖尿病性末梢神経障害患者における歩行ー」(伊東太郎)		
4. 多関節運動学入門	共	2007年02月 28日	編者 山下謙智: 共著 山下謙智, 伊東太郎,東隆 史,徳原康彦、 ナップ社 ppl19-	分担執筆:第8章「運動中に付随する姿勢調節と体性感覚」,第9章 「高齢者の転倒と先行随伴性姿勢調節との関連」 (伊東太郎)		
5. 『身体運動のバイオ メカニクス』第13回 日本バイオメカニク ス学会大会論集	共	1997年03月	編者 岡田守彦 筑波大学体育科学 系発刊 167~172頁	分担執筆:各種動作時間での一歩踏み出し動作における見越し活動 の様式について (伊東太郎, 山下謙智, 東 隆史)		
6. 『ジャンプ研究』第 10回バイオメカニク ス学会大会論集 編者	共	1990年05月	編者 大道等 メディカルプレス 社 140~146頁	分担執筆:連続跳躍運動の筋電図的研究-ホッピング(連続片脚跳)跳躍中の一側の脚の働きについて- (伊東太郎)		
7. 『スポーツパフォー マンスの環境』第9 回日本バイオメカニ クス学会大会論集	共	1988年07月	編者 渡部和彦 杏林書院 229~236頁	分担執筆:三段跳の筋電図的研究-上肢および躯幹が連続跳躍に及 ぼす影響について-(伊東太郎,徳山廣)		
8. 『動きのコツを探 る』第8回日本バイ オメカニクス学会大 会論集	共	1986年07月	編者 石井喜八 杏林書院 107~112頁	分担執筆: 躯幹の基本動作に関する基礎的研究 - 躯幹の後方伸展の 筋電図的分析 - (大塚恭子,伊東太郎,徳山廣)		
2 学位論文	出	2004年07日	古和工士妹妹上兴	化 道数点 小式锤知		
1. The relationship between anticipatory postural	単	2004年07月 26日	京都工芸繊維大学 論文博士学位論文 [博士(学術)]	指導教官 山下謙智		
adjustments and motor performance in a standing position in humans						
3 学術論文						
1. 三段跳試技前に導入する助走付五段跳の	共	2023年3月	健康・ スポーツ科 学 Vol.13 No.1	恵良和鈴・伊東太郎・熊野陽人・永原 隆・前田 明		
即時的効果(査読						

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
3 学術論文	T	T	I	
付) 2. 足底への荷重と頸部 への振動刺激が立位 時の重心動揺に及ぼ す影響 —busy-line effectの影響—(査 読付)	共	2020年3月	健康・スポーツ科 学 Vol.10 No.1	三浦有花,伊東太郎
3.トランポリン競技の 踏切における筋活動 と滞空時間との関連 (査読付)	共	2017年8月 18日	体育・スポーツ科 学 26:31 - 36	松島 正知,中西 增代,中西 康人,植杉 優一,矢野 澄雄,伊東太郎
4. 軽症糖尿病性末梢神 経障害患者の歩行に おける足圧と下腿筋 電図の特徴(査読 付)	共	2017年07月1日	日本健康体力栄養学会誌	植杉優一,中西増代,中西康人,松島正知,伊東太郎
5. High-intensity, low-frequency, short-duration training positively impacts work capacity and cardiorespiratory fitness. (refree)	共	2016年02月	Jpn Journal of Health, Fitness, and Nutrition (20(1):pp. 35- 41)	Nakanishi Y, Inoue Y, Ito T, Inoue S, Murakami T, Nethery VM
6. Control of Precision Grip Force in Lifting and Holding of Low -Mass Objects. (refree)	共	2015年09月	PLoS One. 10(9)	Hiramatsu Y, Kimura D, Kadota K, Ito T, Kinoshita H.
7. Exercise intensity differentially impacts sensitivity thresholds to specific tastes. (referee)	共	2015年06月	Journal of Biology of Exercise (Volume 11(1), pp69-80)	Yasuto NAKANISHI, Yoshimitsu INOUE, Taro ITO, Vincent Nethery
8. 糖尿病性末梢神経障 害患者の歩容の分析	単	2011年07月	ユニベール財団調 査研究報告書「豊 かな高齢社会の探 求」	伊東太郎
9. 長期および短期 ファットローディン グが持久的運動のパ フォーマンスに及ぼ す影響について「(査 読付)」	共	2011年04月	大阪体育学研究	南本裕介,伊東太郎,
10.Postural stability enhances the effect of dorsal neck muscle vibration on anticipatory postural adjustments when moving rapidly to a tiptoe position from a bipedal stance 「(査読付)」	共	2010年04月	大阪体育学研究	Taro Ito, Takashi Azuma, Yasuhiko Tokuhara, Noriyoshi Yamashita

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
3 学術論文	1	T		
11. 投球動作時の姿勢筋 の疲労回復にともな う姿勢協同筋活動の 経時的変化「(査読 付)」	共	2010年04月	大阪体育学研究	伊東太郎,南本裕介,渡邊完児,井上芳光,山下謙智
12. Attenuation of the anticipatory postural adjustments in the frontal plane with the increase of the forward propulsive velocity of step initiation in humans 「(查読付)」	共	2010年04月	大阪体育学研究	Taro Ito, Takashi Azuma, Noriyoshi Yamashita
13.Changes in forward step velocity on step initiation from backward and forward leaning postures「(査読付)」	共	2010年04月	大阪体育学研究	Taro Ito, Takashi Azuma, Noriyoshi Yamashita
14.運動開始前の初期重 心位置の変化が先行 随伴性姿勢調節と運 動成果に及ぼす影響 について「(査読 付)」	共	2008年03月	大阪体育学研究 第46巻1-11	東 隆史,伊東太郎,山下謙智
15. Effects of changing the initial horizontal location of the center of mass on the anticipatory postural adjustments and task performance associated with step initiation (referee)	共	2007年08月	Gait & Posture, 26:526-531	Takashi Azuma, Taro Ito, Noriyoshi Yamashita
16. 先行随伴性姿勢調節 の機能的意義 -The functional roles of anticipatory postural adjustments-	単	2006年03月	英知大学人文科学 研究室紀要 第9号:1-57	伊東太郎
17. Anticipatory control related to the upward propulsive force during the rising on tiptoe from an upright standing position (referee)	共	2004年03月	European Journal of Applied Physiology, 92(1-2):186-195	Taro Ito, Takashi Azuma, Noriyoshi Yamashita
18. Anticipatory control in the	共	2003年12月	Neuroscience Letters, 352(3):	Taro Ito, Takashi Azuma, Noriyoshi Yamashita

	研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・	発行又は	発行所、発表雑誌等	概要	
	共著書別	発表の年月	又は学会等の名称	11791,5%	
3 学術論文 initiation of a			207-210		
			207-210		
single step under					
biomechanical					
constraints in					
humans (referee)	11.	1000 500 5			
19. 相対的筋放電量から	共	1998年03月	日本体操競技研究	金 尚憲,川辺秀樹,寺田光世,伊東太郎,山下謙智	
みた上水平支持「(査			会誌 第6号:69-75		
読付)」			mt. 1 10111 1		
20.ホッピング跳躍中の	共	1992年03月	陸上競技研究	花野俊昭,伊東輝雄,東 隆史,伊東太郎	
踏切脚の動作に関す			第8号:20-27		
る筋電図的解析「(査					
読付)」	.,	1001 - 10 -	- 1200	the way to see a first the second sec	
21.筋電図によるHuman	共	1991年12月	ランニング学研究	花野俊昭,伊東太郎,東 隆史	
locomotionの動作解			第3巻第1号:20-		
析ーホッピング動作			30		
中の上下肢・躯幹の					
連動一「(査読					
付)」					
その他					
1. 学会ゲストスピーカー	244	2010 5 11 5	体の同じ	土沸点の沸光を担 がしず	
1. ドイツ・ケムニッツ	単	2018年11月	第9回トレーニン	本講座の講義を担当した	
のエリート陸上クラ		24日~25日	グ科学国際集中講		
ブ の指導法に息づく			座"情報とエネル		
"ライプチヒ学派"	W.	0010 = 0 = 1	ギーの一体性"		
2. 軽症糖尿病性末梢神	単	2018年9月1	神戸Podiatryー	臨床医あるいは看護師に対し、足潰瘍を発症していない軽症の糖尿	
経障害患者の歩行に		日	ミーティング(招	病性末梢神経障害患者の歩行について、筋電図と足圧を中心にその	
おける足圧と下腿筋			待講演 於:生田	特徴を解説した.	
電図の特徴		0010 = 11 =	神社会館)		
3. 陸上跳躍種目におけ	単	2016年11月	第7回トレーニン	本講座の講義を担当した	
るコオーディネー		18日~20日	グ科学国際集中講		
ショントレーニング			座"情報とエネル		
- "ライプチヒ学			ギーの一体性"		
派"に基づくトレー ニングプランの効果					
事例					
2. 学会発表	11.	2022 50 51	ロナル大 コル	秦	
1. 大学女子跳躍選手の	共	2023年9月1	日本体育・スポー	齋藤 遥,伊東太郎	
連続跳躍踏切時の床		日	ツ・健康学会第73		
反力に及ぼす 空輸動			回大会(同志社大		
作の介入効果の検証			学今出川キャンパ		
りもようかまれい。明一	++	2010年00日	ス)		
2. 身体の鉛直性に関す	共	2019年09月	口子是去兴人然吗?	三浦 有花,伊東 太郎	
る指示が立位時の重		12日	日本体育学会第70		
心動揺に与える影響			回大会(慶應義塾大		
9 一氏はいアンルフ ものせ	++	2010 5:00 日	学)	 東白和松 伊東十郎 能取阻 礼居收 芒四四	
3. 三段跳における加速	共	2019年06月	第30回兵庫体育・	惠良和鈴,伊東太郎,熊野陽人,永原隆,前田明	
助走付五段跳の即時		01日	スポーツ科学学会		
的効果			大会(神戸親和女子 大学鈴蘭台キャン		
4 支持性の日本、の共	++	2010年0日	パス) 笠の同 ロオル本	一油 右共、東自和公、とよれれの 四東上部	
4. 立位時の足底への荷	共	2018年8月	第69回 日本体育	三浦 有花・恵良和鈴・近成ひなの・伊東太郎	
重が振動刺激による		24日	学会(徳島大学)		
重心動揺に及ぼす影					
響響	++	9017 /* 10	禁犯师 中土		
5. 走幅跳選手における	共	2017年10月	第30回 日本ト	上垣 麻衣子,三浦 有花,伊東 太郎	
メスプラッツトレー		08日	レーニング科学会		
ニングの有用性の検証:			大会(日本体育大学)		
	++	2017年09日			
6. 筋内コオーディネー	共	2017年03月	大阪体育学会第5	伊藤 剛, 大藤潤也, 谷 明香, 長田結衣, 森田美希, 上垣麻衣	

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・	発行又は	発行所、発表雑誌等	概要
2. 学会発表	共著書別	発表の年月	又は学会等の名称	7/12
2. 子云光衣 ショントレーニング		12日	5回大会(関西大	子,伊東太郎
の効果			学)	1, 1) XXXV
7. 競泳選手の専門距離	共	2017年03月	大阪体育学会第5	長田結衣,伊藤剛,大藤潤也,谷明香,森田美希,上垣麻衣
タイプからみた200m		12日	5回大会(関西大	子,伊東太郎
自由形における筋電			学)	
図的特徴				
8. ソフトボール投手に	共	2017年03月	大阪体育学会第5	森田美希,伊藤 剛,大藤潤也,谷 明香,長田結衣,伊東太郎
おける着地足の床反		12日	5回大会(関西大	
力および下肢筋群の			学)	
活動がボール速度に 及ぼす影響				
及は9影音9.イミダゾールジペプ	共	2016年08月	第67回日本体育	 谷 明香,宮本芙美香,伊藤 剛,大藤潤也,長田結衣,森田美
チド (IMDP) 摂取が		26日	学会	希, 中西增代, 伊東太郎
運動時の局所筋疲労			7.4	TO THE BUY DE ANAP
に及ぼす影響				
10.柔道の大外刈におけ	共	2016年08月	第67回日本体育	大藤潤也,伊藤 剛,谷 明香,長田結衣,森田美希,伊東太郎
る習熟度からみた釣		25日	学会	
手側の上肢および上				
肢帯筋群の活動様相				
11.トランポリン競技の	共	2015年08月	第66回 日本体育	松島正知,百畑美希,岩下由利子,伊東太郎
踏切における筋活動		27日	学会(国士舘大	
と滞空時間との関連 12.ソフトボール投手に	共	2015年03月	学) 第53回大阪体育学	 森田美希,木下 博,伊東太郎
おけるボール反力	共	2015年05月	会(大阪産業大学)	林田美布,本下一時,伊東太郎
13.大学女子競泳選手に	共	2015年03月	第53回大阪体育学	 山下笑梨,松島正知,百畑美希,中西増代,生田泰志,伊東太郎
おけるバイオメカニ		2010 00/1	会(大阪産業大学)	ETAN, DELLA, LAZIN, LAZIN, DANA
クス的サポート				
14.体幹筋群の断面積に	共	2015年03月	第53回大阪体育学	百畑美希,木下 博,山下笑梨,松島正知,脇谷滋之,伊東太郎
おけるコアトレーニ			会(大阪産業大学)	
ングの効果				
15. The effects of low	共	2014年12月	The	Nakanishi Y, Inoue Y , Ito T, Nethery VM
and high			International	
intensity exercises on four			Sport & Exercise Nutrition	
basic taste			Conference	
sensitivities.			(Northumbria	
			University,	
			England)	
16.Grip force for	共	2014年11月	Neuroscience	Hiramatsu Y, Kimura D, Ito T, Kadota K, Kinoshita H
holding a light			2014 (Walter E.	
object by elderly			Washington	
people.			Convention	
17 47 47 7 7 7 11 1	++	2014年:00日	Center, USA)	古州学系 结杉區 , 山土林利 - 朳自土州 - 土工庄 - 土工路小
17. 女子カヌースプリン ト実漕中の艇加速度	共	2014年09月	第23回日本バイオ メカニクス学会大	百畑美希,植杉優一,山下笑梨,松島正知,中西康人,中西増代, 浅田鈴佳,木下 博,伊東太郎
と筋活動様相		1.0 11	会(JISS)	1.4四岁年1年,八十二日,广本八州
18.野球投球における	共	2014年09月	第23回日本バイオ	
ボール反力		14日	メカニクス学会大	THE STATE OF THE S
			会 (JISS)	
19.女子カヌースプリン	共	2014年03月	大阪体育学会(特	百畑美希,植杉優一,小笠原一生,伊東太郎
トにおけるスタート		16日	別企画発表)(近	
ダッシュのバイオメ			畿大学)	
カニクス的研究	11.	0010	ktroop - 1 // / -	
20. イミダゾールジペプ	共	2013年09月	第68回日本体力医	宮本芙美香,村上尭之,森上真依,松島正知,綱あづさ,鈴木祐美
チド摂取が女子学生 アスリートの運動パ		23∃	学会大会(東京慈恵	子,伊東太郎
フォーマンスに及ぼ			医科大学)	
す影響				
21. 大学女子ソフトボー	共	2013年09月	第68回日本体力医	森上真依,宮本芙美香,村上尭之,松島正知,植杉優一,伊東太郎
7.1.2.1.2.1.1.1	· ·	1 7 - 7		The state of the s

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
2. 学会発表	1	!	!	
ル選手におけるバッ ティング動作の筋電 図的研究		23日	学会大会(東京慈恵 医科大学)	
22. 競泳選手のための練 習機の開発と評価に ついての筋電図的検 証	共	2013年09月23日	第68回日本体力医 学会大会(東京慈恵 医科大学)	村上尭之,山下笑梨,渡邉文雄,阿部洋平,中西康人,木下博,伊東太郎
23. 新開発された競泳練 習機のトレーニング 効果について	共	2013年9月 23日	第68回日本体力医 学会大会(東京慈恵 医科大学)	山下笑梨,村上尭之,渡邉文雄,阿部洋平,小幡哲史,大澤智惠, 木下博,伊東太郎
24. オールアウト運動に よる運動疲労が味覚 感受性に及ぼす影響	共	2013年09月 14日	計測自動制御学会 「ライフエンジニ アリング部門シン ポジウム2013」	中西康人,伊東太郎,井上芳光,村上尭之,笠間基寛
25.An electromyographic study of the left hand in violin playing	共	2013年08月	International Symposium on Performance Science((Campus Vienna, Austria))	Obata S, Nakahara H, Hirano T, Ohsawa C, Okuno R, Ito T and Kinoshita H
26. 疲労姿勢筋の連続投 球動作中の回復に長 期トレーニングが及 ぼす影響	共	2012年09月	第67 回日本体力医学会大会(岐阜大学)	伊東太郎,植杉優一,原 千晶,森上真依,中西康人,木下 博,井上芳光
27. 女子新体操競技にお けるバランスパ フォーマンスと大腰 筋断面積との関係	共	2012年09月	第67 回日本体力医学会大会(岐阜大学)	原千晶,植杉優一,宮本芙美香,木下博,浅田鈴佳,脇谷滋之,伊東太郎
28. 女子カヌー実漕時における艇加速度と上肢帯・体幹筋活動との関連	共	2012年09月	第67回日本体力医学会大会(岐阜大学)	植杉優一,原千晶,村上尭之,新井彩,小笠原一生,田中繁宏,伊東太郎
29. Accuracy of reaching a target key by trained pianists	共	2012年07月	12th International Conference on Music Perception and Cognition (ICMPC) & 8th Triennial Conference of the European Society for the Cognitive Sciences of Music ESCOM), Thessaloniki, Greece.	Ohsawa C, Hirano T, Obata S, Ito T, Kinoshita H
30. ピアニストのキー位置指示課題遂行にみる鍵盤の空間的記憶の特性	共	2012年06月	運動学習研究会	大澤智恵,伊東太郎,門田浩二,木下博
31. 新体操のバランス課 題におけるスキル差 の一要因	共	2012年03月	第50回大阪体育学 会	原 千晶,植杉優一,小幡哲史,木下 博,永戸久美,伊達萬里子,伊東太郎
32. 女子カヌースプリン ト選手におけるアー ムエルゴメーター駆	共	2012年03月	第50回大阪体育学 会	植杉優一,原 千晶,山田咲貴,橋本千晶,伊東太郎

			研究業績等に関	関する事項
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
動時の筋作用機序に				
ついて				
33.女子陸上競技選手を	共	2012年01月	近畿体力医学会	山本一八,新井 彩,伊田美紗子,奥田千代,平原麻衣子,
対象とした簡便法に				伊東太郎,渡邊完児
よる身体組成推定式				
の推定精度-空気置				
換法を基準とした際				
の精度について-				
34.糖尿病性末梢神経障	共	2011年09月	第66回日本体力医	植杉優一,伊東太郎,佐々木敏作,原 千晶,渡邊完児,田中史朗
害患者の歩行におけ			学会大会	
る足圧と下腿筋筋電				
図の特徴				
35.Expert-novice	共	2011年07月	International	Kinoshita H, Obata S, Hirano T, Osawa C, Ito T
difference in			Society of	
string clamping			Biomechanics	
force in violin			(ISB) 2011	
playing			Congresses	
1			(Brussels)	
36.バイオリン演奏時の	共	2011年07月	第22回日本バイオ	 小幡哲史, 伊東太郎, 木下 博
下顎が受ける力と顎	,		メカニズム学会	
関節への影響につい				
T				
37. 糖尿病性末梢神経障	共	2011年03月	第49回大阪体育学	 伊東太郎, 植杉優一, 南本裕介, 渡邊完児
害患者の歩容-歩行		2011 00/3	会	17 7K7K4F, 11817 12 , 117 11 11 11 11 11 12 12 12 12 12 12 12 12
中の足圧と下腿筋群				
の筋活動-				
3. 総説				
1.まず歩くことは何か	単	2009年10月	臨牀看護,10月号	
を知ろう -歩行と足				
病変-				
4. 芸術 (建築模型等含む)	・スポー、	ソ分野の業績		
1. 『UNIVAS AWARDS	単	2023年3月6	一般社団法人 大学	大学スポーツ協会「UNIVAS」より、2022年度における陸上競技部 監
2022-23』コーチ・オ		日	スポーツ協会	督兼跳躍コーチの成果を評価いただいた。
ブ・ザ・イヤー入賞			「UNIVAS」	
2. 日本学生陸上競技連	単	2022年12月	日本学生陸上競技	跳躍コーチとして指導した船田茜理選手が、2022年8月7日に三段
合 栄章贈与(指導		17日	連合	跳で13m81の日本学生新記録を24年ぶりに樹立した。その功として日
者)				本学生陸上競技連合から指導者賞が贈与された.
3.マスターズ陸上 参		2012年9月~		
加	1 = 1. 2 =	現在		
5. 報告発表・翻訳・編集・	1		性 (数针开房 / 房	[D] 本工
1. 船田茜理選手の日本	共	2023年2月	陸上競技研究(実	伊東太郎,菅田玲奈,中西匠
学生新記録樹立まで			践報告)	
の大学 4 年間におけ				
るトレーニング	244	2016 5:11 🗆	笠 6 同学 中田 セフ	マハノポッシュト レレー ア改主! ※ 公人斗・ムル・カー・リュ
2. コオーディネーショ	単	2016年11月	第6回武庫川女子	シンポジストととして発表し,総合討論に参加した.
ントレーニングは大		12日	大学健康運動科学	
学アスリートのパ			研究所シンポジウ	
フォーマンス向上に			ム「コオーディーション・ト	
貢献できるのか?―			スーション・ト レーニングは体	
陸上競技女子選手の			アーニングは体 育・スポーツに何	
実践報告より一				
2 十学ケフ味しがたい	出	2015年11月	をもたらすか?」	 ドイツ・ライプチヒで修得したコオーディネーショントレーニング
3. 大学女子陸上部にお	単		「スポーツフォー	
けるコオーディネー ショントレーニング		28日	ラム2015」公益財団法人ユーハイム	について、9ヶ月に渡る実践とその効果について報告を行った(兵庫
				医療大学)
の実践と効果			体育・スポーツ振	
 4.『運動と姿勢調整』	単	2013年11月	興会主催 公益社団法人 日	 大阪回生病院リハビリテーションセンター
4. 『連動と安労調金』 -身体機能の低下と姿	于	16日	本理学療法士協会	八阪四上が7万ファーフェンピング
オ 平阪比の出下こ女	 	1.01	产生于凉仏 上	

研究業績等に関する事項					
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要	
 5.報告発表・翻訳・編集・					
勢調節-, -体性感覚 と姿勢調節-			理学療法士講習 会講師(理論・基 本編)(担当2コ マ)		
5. The influence of fatigue caused by all-out exercise upon taste sensitivities.	共	2013年	Proceedings of Life Engineering Symposium 2013	Nakanishi Y, Ito T, Inoue S, Murakami T, Kasama M	
6. 研究費の取得状況					
1. 文部科学省科学研究 費補助金 基盤研究 (c)	単	2019年~ 2023	研究代表者	糖尿病性末梢神経障害患者の歩行の特徴と病態進行との関連	
2. アジア選手権大会視察(助成)	共	2017年07月 04日~11	一般財団法人 大 阪陸上競技協会 「OSAKA夢プログラ ム」	2017アジア選手権(インド・ブバネシュワル)に女子走高跳 日本 代表として3年生 秦 澄美鈴(「OSAKA夢プログラム」指定競技 者)が出場した.大阪陸協「OSAKA夢プログラム」ゼネラルマネー ジャー上田重隆先生と随行し,秦選手の試合を観戦するとともに大 会視察を全日行った.すべて大阪陸協の助成でご援助いただいた.	
3. 平成29年度 科学研究費補助金学内奨励金 採択	単	2017年6月 15日~2018年 2月15日	武庫川女子大学	科学研究費補助金学内奨励金として研究課題を採択して頂いた。研究課題「旧東独を参考にした陸上競技の女子跳躍におけるトップ期のトレーニングプランの最適化」 2017年12月4日~13日まで、ドイツザクセン州ケムニッツエリート陸上クラブにおいて、旧東独時代からの跳躍コーチHarry Marusch氏のインタビュー調査を中心に実施した.	
4. アジア陸連主催アジ アグランプリ視察 (助成)	共		一般財団法人 大 阪陸上競技協会 「OSAKA夢プログラ ム」	2017アジアグランプリ(全3戦.中国金華市,中国嘉興市,台湾台北市)に女子走高跳 日本代表として3年生 秦 澄美鈴(「OSAKA夢プログラム」指定競技者)が出場した.大阪陸協「OSAKA夢プログラム」ゼネラルマネージャー上田重隆先生と随行し,試合を視察するとともに秦選手のサポート,コーチングを実施した.大阪陸協の助成でご援助いただいた.	
5. 第11回トレーニング 科学・国際集中講座 2015兵庫県スポーツ 指導者派遣事業助成	単	2015年02月 26日~03月 11日	研究代表者	ドイツ/ライプチヒ大学(派遣:ユーハイム体育・スポーツ振興会助成)	
6. 文部科学省科学研究 費補助金 基盤研究 (c)	単	2013年~	研究代表者	競泳練習機トレーニングによる実泳時の疲労緩衝効果に関する筋電 図的検証	
7. 文部科学省科学研究 費補助金 基盤研究 (c)	共	2011年~ 2015年	研究分担者	運動強度・運動量と味覚感受性との関係および加齢がその関係に及 ぼす影響	
8. 文部科学省科学研究 費補助金 基盤研究 (c)	共	2011年~ 2012年	研究代表者	姿勢協同筋を中心とした神経系システムの補償的作用ならびにその 加齢的変化	
9. 文部科学省科学研究 費補助金 基盤研究 (c)	共	2010年~ 2015年	研究分担者	軽量小物体の精密把握運動における把握力制御について	

学会及び社会における活動等				
年月日	事項			
	日本体育学会,日本バイオメカニクス学会,日本陸上競技学会			